

議題（2）東部地域独自テーマ

東部地域に適した 主伐・再造林方法の模索

株式会社 森ラボによる取組紹介

プロフィール



主な資格

- 森林総合監理士
- 林業技士（林業経営）
- 樹木医
- フォレストワーカー
- しずおか林業作業士
- 自然再生士
- 森林インストラクター

株式会社 森ラボ 代表取締役 鈴木 礼

- 2007年 日本大学 生物資源科学部 森林資源科学科 卒業
- 同年 有限会社天竜フォレスター入社
現場技術職として、造林、育林、素材生産の業務に従事
- 2010年 企画営業職に異動し、森林経営計画策定や補助金申請等のプランニング業務に従事
- 2013年 有限会社天竜フォレスターを退職し、地元・静岡県三島市に戻り独立
- 2014年 株式会社森ラボを設立
「森のなんでも屋」として、森林管理、森林・樹木調査、素材生産、補助金申請、研修会講師、アドバイザー等の森林・林業関係の幅広い業務を手掛ける。
社員は妻と二人の会社だが、業務に応じて仲間とチームを組んで対応するスタイルをとっている

主伐・再造林とは



収穫
+
植林
+
下刈り

図：林野庁HPより

主伐・再造林に立ちふさがる “壁”

◎総合戦略評価書P46～47より

- 森林所有者は主伐・再造林の採算性や獣害等に不安を持っている。
- それに対し、主伐型路網整備の支援、生産性の向上や獣害対策の効率化する先端技術の現場実装促進といった取組方針を打ち出している。



東部地域においては造林（植林、獣害対策、下刈り）の担い手が圧倒的に不足している。

- その理由は...
- 造林作業は儲けを出しにくい
 - 下刈りは林業作業の中で最も過酷（きつい、危険）
 - 木材生産機械（ハーベスタやフォワーダ等）の稼働率を下げたくない

急速に進む造林技術の研究開発

- 従来よりも成長の早いエリートツリー苗の普及
- 苗木の自動植付機の開発
- ドローンを活用した種子散布による再造林の実証試験
- 傾斜地でも作業可能な造林機械の実用化
- 3次元点群データ解析による高密度森林情報を活用した計画の効率化



三島モデルの実証実験をスタート

造林機械の試験導入

下刈りを機械化するためには切株や伐採した木の枝葉が作業の支障となるため、植林前に粉碎・除去する必要がある。

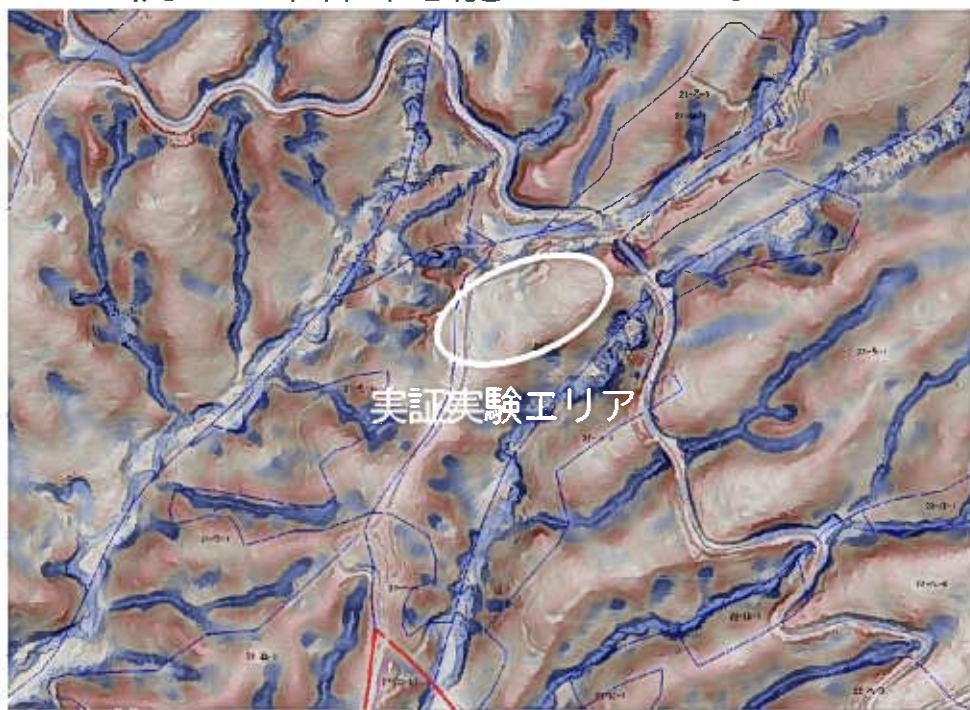
来年度に植林し、遠隔操作式の草刈機での下刈り作業を計画中。



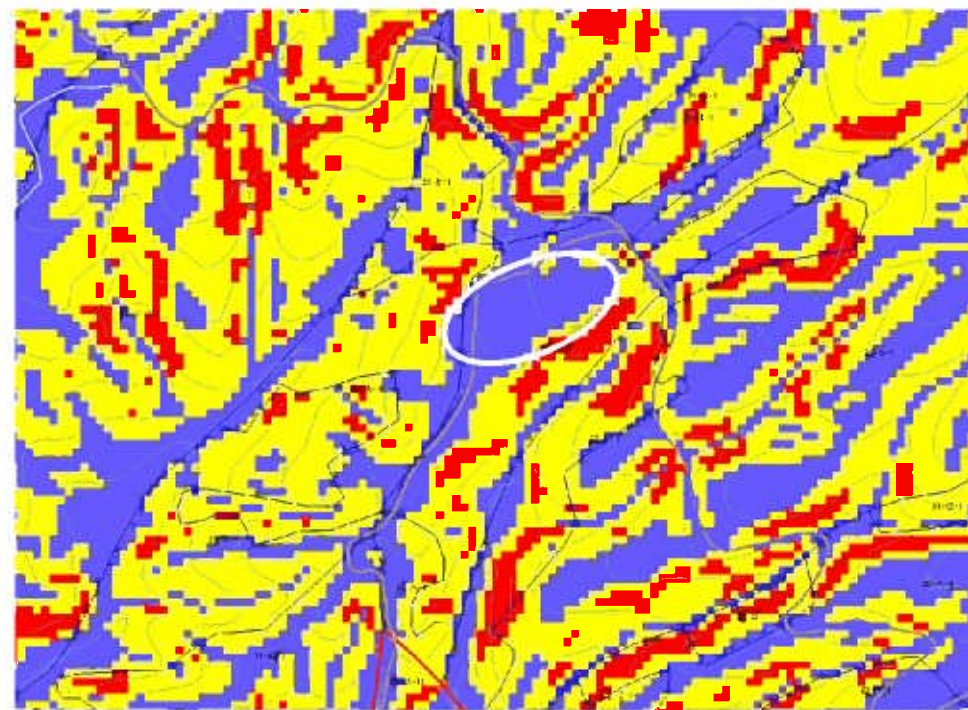
高精度森林情報の活用

3次元点群データの解析により、高精度の地形データや森林資源量が可視化された。

例) 主伐による生産見込材積、搬出距離、傾斜度による造林機械の導入可否判断等が机上で計画可能となった。



CS立体図



傾斜区分図

主伐・再造林という選択肢を用意したい

- ▶ 総合戦略評価書からは、木材生産量の目標値50万 m^3 を達成するために生産性の高い主伐を推し進めたい意図が感じられるが、林業は森林所有者の意向や希望に沿って施業内容を提案するものなので、現在はほぼ「間伐」一択である状況を「主伐・再造林」もしくは「間伐」という**選択ができる状況に変えることが重要**だと考えている。
- ▶ 三島モデルの確立ができれば、この東部地域のどこでも概ね活用できると確信しているので、最重要課題として取り組んでいる。